



▲黒髪山頂の天童岩からのスケッチ①(南・西面)



▲龍門の象徴・三つ岩と後黒髪峰

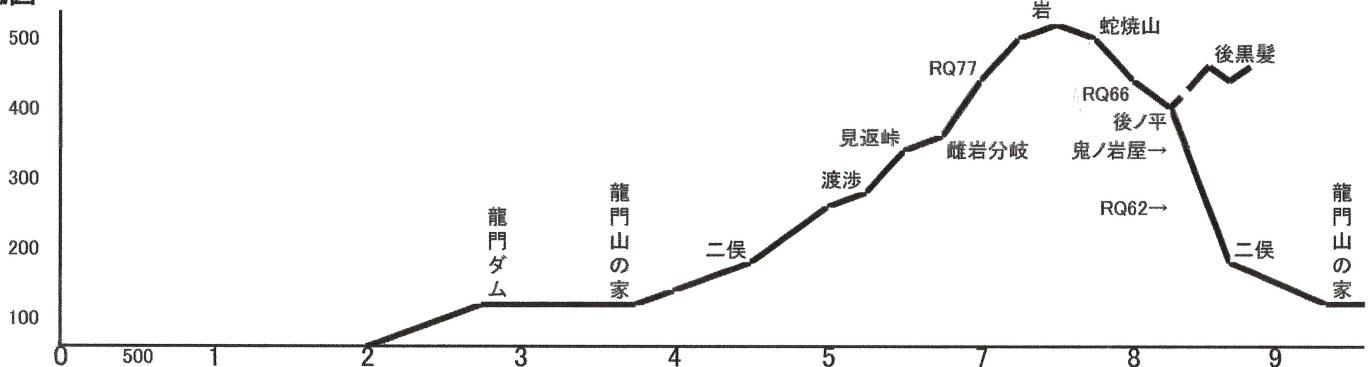


▲見返峠は黒髪連山登山ルートの要衝

コースタイム

MR西有田駅	20分	矢房神社交差点(信号灯)	30分	広瀬山四差路	5分	龍門ダム入口	20分	龍門山の家
龍門山の家	10分	渓谷公園	10分	二俣 RQ60番	25分	見返峠 RQ51番	20分	天童岩北分岐 RQ77番
天童岩北分岐 RQ77番	5分	天童岩直下の分岐 RQ78	5分	天童岩のコル	5分	う回路分岐点 RQ68	5分	蛇焼山 RQ67番
蛇焼山 RQ67番	10分	蛇焼山取付き RQ66番	5分	昼夜岩	10分	後ノ平 RQ63番	10分	鬼の岩屋
鬼の岩屋	5分	くぐり岩	10分	三つ岩沢渡渉点/RQ62	15分	二俣 RQ60番	15分	龍門山の家
後ノ平 RQ63番	15分	後黒髪東峰 RQ64	5分	後黒髪西峰 RQ6	20分	後ノ平 RQ63番		

高低図



黒髪山:連山盟主に登る表銀座コース

山名 RQNo. 7 黒髪山
RQNo. 6 後黒髪峰

ルート No.4-1 龍門から見返峠、黒髪山そして後ノ平へ

登山口 龍門山の家

最寄駅 松浦鉄道西有田駅

登山口まで4kmの車道歩きが必要

駐車場 龍門山の家駐車場

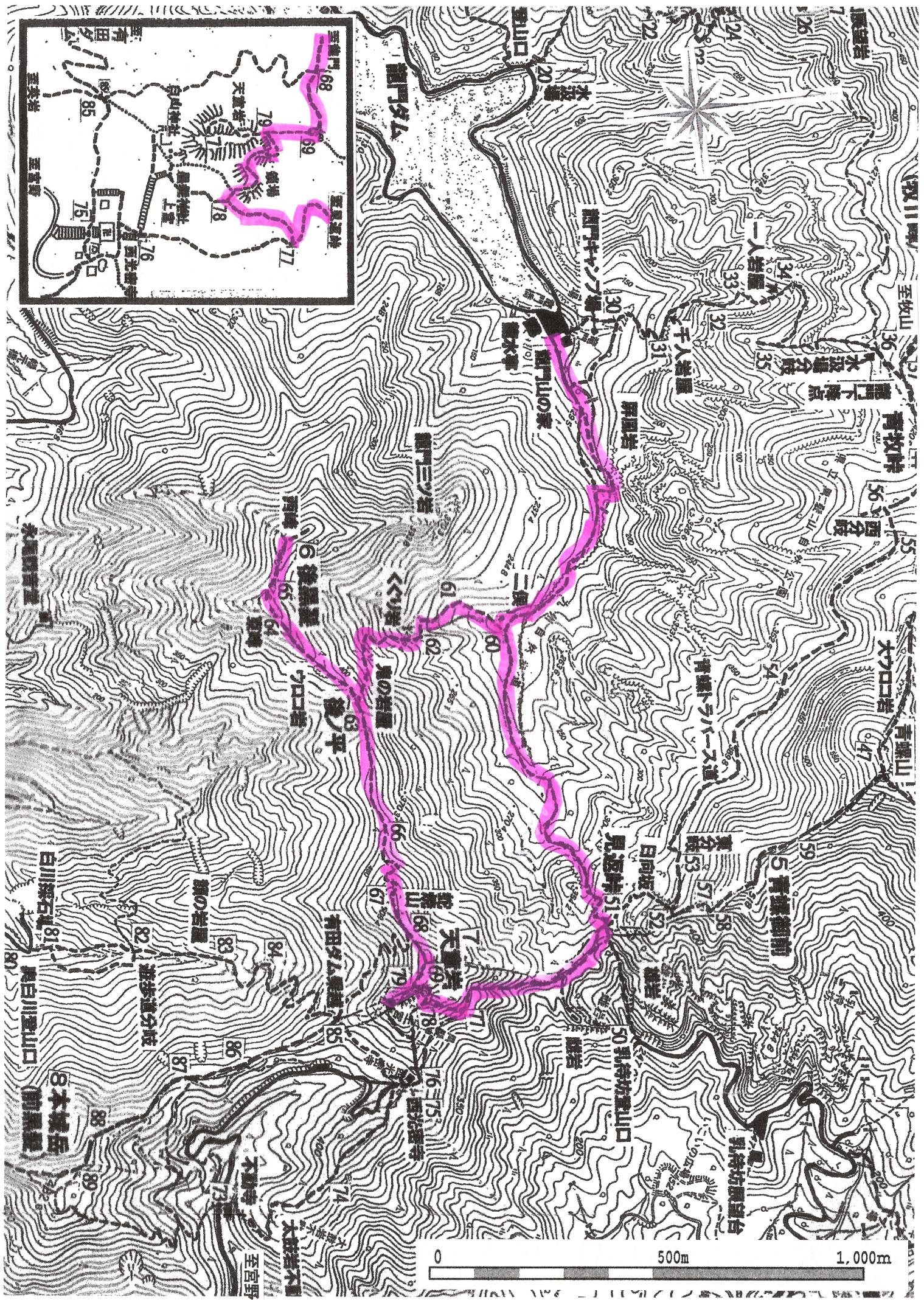
80台(中型バス2台含む)可能

公衆便所、案内所あり

(注) RQの意味

レスキュウポイントの意味です。

本来なら、RESCUEですから、短縮造語は「RC」とすべきですが、ここでは「RQ」として表記しています。



アプローチ



▲西有田駅跨線橋から望むと主峰の青螺山。右は後黒髪峰で、左は牧山。

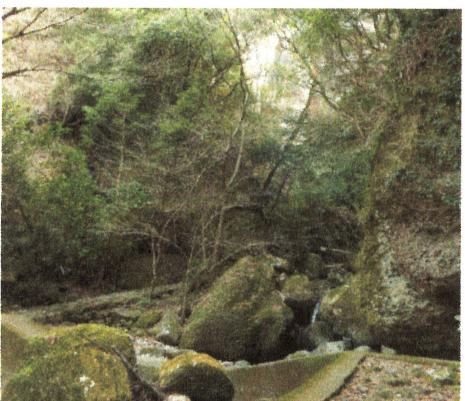


▲県道281号の広瀬山入口交差点と後黒髪峰

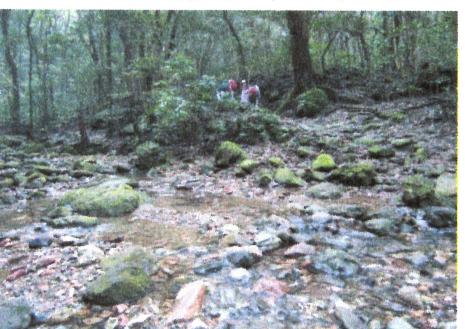


▲龍門山の家と駐車場

登山ルート



▲渓谷公園は遊歩道で楽しみながら



▲二俣手前の河原を渡渉する

公共交通機関を利用する場合

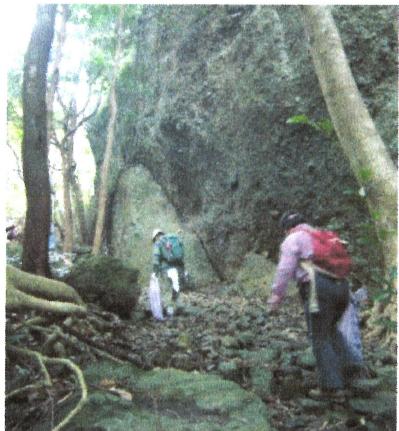
JR有田駅から龍門山の家まで距離は6kmで、応法バス停まで有田町コミュニティバス利用の場合は、半分を省略できる。MR西有田駅から龍門山の家までは5kmで、コミュニティバスは無い。田園風景を楽しみながら、のんびりと歩くことになる。西有田駅の南側にある跨線橋の上からは、黒髪連山を一望できる。牧山は中央に鎮座する青螺山の左脇に、デーンと横たわっている。登山口の龍門峠は青螺山の山腹である。有田川に架かる志尾里橋を渡り、西有田中学校の前を通過し、矢房神社下の信号のある交差点で、県道を横断して、さらに東(まっすぐ)の車道を行く。北(左)手に牧山が近づいてくる。製陶所を左手に見送って出た三叉路を東(右)へ行き、すぐに市街地の道を進む。狭くなった車道沿いの街は広瀬山集落で、江戸期から有田外山の窯場である。突き当りの4差路を南(右)へ行く。4差路を北(まっすぐ)行けば、かつての龍門道だが、途中で龍門ダムに当たり、行き止まりとなる。4差路を東(右)へ、製陶所の間を通り、橋を渡ると龍門峠への入り口車道となる。ここを東(左)へ登って行く。登り切って龍門ダムの堰堤脇に上がる。ここで道が分かれるが、車道はダムを時計まわりに一方通行となる。歩くのには交通規制はなく、堰堤を渡らず東(まっすぐ)に進む。途中、木立の向こうにこれから登る牧山の大きな山容が見てとれる。

マイカー利用の場合

県道281号(伊万里有田線)の広瀬山入口もしくは龍門ダム入口から広瀬山地区に入り、龍門山の家(Tel 0955-46-4022)を目指す。広瀬山地区共同墓地前の3差路から東進して上り、800mで龍門ダム堰堤に着く。ここから時計廻りに一方通行で、1500m先の龍門山の家駐車場(80台)に車を置く。

龍門山の家から二俣(RQ60)へ

山の家から案内サインに従い、キャンプ場を横断して登る。小沢を渡り、青牧峠への登山口を左に見送り、砂利道の遊歩道を東南北方向へ進み、橋梁を1つ渡る。階段状を下るとコンクリート橋に出る。西(右)に龍門山の家が見える。遠回りをさせられたが、そこはウォーミングアップと考えてほしい。橋から東(左)に進み、龍門渓谷に入る。やがて石仏1体があり、道は分かれる。右手に上る登山道は、渓谷公園を下に見て進む登山路で、下山路に使い、まっすぐ遊歩道を進む。東屋を右に見て、渓谷を右岸へ渡る。登山道は右折して石張り道を登るが、正面の階段道を登れば、大きな岩屋に出る。ここは大蛇退治伝説の「大蛇の棲家」で、奥に細長い洞窟がある。5mほどで行き止まりで、祠が祀ってある。今はコウモリの棲家だ。登山道に戻り、渓谷左岸の遊歩道を登れば、左手に稻荷社があり、ここにも洞窟があり、石仏が祀ってある。立派なコンクリート製の太鼓橋を渡り右岸の斜面を登っていく。登りきると、石仏1体の先で別れた登山道と合う。道標に従い登山道を東(左)へ進む。やがて渓谷右岸についた銀龍の滝への道を左手に見送り、渡渉点に着く。右岸へ渡って、登山道を登る。やがて広い河原に出て、再び左岸へ渡る。この辺りが二俣で、渡渉して進むとすぐ、後ノ平への分岐(RQ60番)につく。



▲夜の星岩の大岩壁／岩根を通過する



▲雌岩入口の分岐附近



▲天童岩への登り道



▲天童岩鎖場(一の鎖)取り付け



▲う回路分岐を通過して龍門へ向かう

二俣から見返峠(RQ51)へ

後ノ平への道は下山路に使い、見返峠へ向け東進(まっすぐ)する。

この登山道は九州自然歩道幹線路で、所々で石畳状に整備されているが、皮肉にも雨の日は滑りやすく、登山者は石畳道の脇を通過している。

樹林の中の登山道はやがて、支沢を渡り階段を越えて進み、本沢に出る。

最後の水場で、沢水は1枚岩の上を流れ下る。氷清き休憩地でもある。

見返峠へは徒渉して、岩に刻まれた階段状を登り、右岸の登山道に出る。

本沢右岸の斜面を登っていくと、岩屑の道に変わり、階段状に積まれた道を登ると、大岩壁の下を通過する。この岩壁は「夜の星岩」と呼ぶ。

かつて坂本九が歌った「見上げてごらん夜の星を」の歌詞にちなんで、誰かが命名した。見上げると超1級品の岩壁である。

石張り登山道をジグザグに高度を上げると、見返峠(RQ51番)に着く。

黒髪連山の中心部の峠で、南(右)に黒髪山、北(左)に青螺山、東(まっすぐ)に下れば乳待坊である。九州自動車道の鳥栖JCTのような所だ。

見返峠から天童岩へ

峠から南(右)に登るとすぐに、夫婦岩展望台に着く。

かつては、雌岩・雄岩の悲恋物語を偲ぶ景勝地であったが、

樹木が育ち過ぎてしまい、その展望も遮られて残念。樹木の寿命を待つしかない。

平坦で心地よい登山道を進むと、左に雌岩への道を分ける。

雌岩へ登るには、明瞭な道を進むとキレットに着いてしまうので、途中から目印テープと踏み跡たよりに木立に入り、木立の中を這い上がる。

岩の上は畳2枚ほどの平坦であり、展望を独占できるが、

四方に切れ落ちた岩峰であることもお忘れなく。

登山道に戻り、岩の間をすり抜けて進むと、次第に高度を増していく。

ザイルの張られた谷の一枚岩に着き、階段状の掘削を登ると、

登山道は岩場の急斜面を登るようになる。

しばらくの急登道を登りきり、石仏を左に見て、小さな尾根をまわり込むと、天童岩北分岐(RQ77番)に出る。石仏代わりの石積みの向こうに、青螺山が見えている。

分岐を、南(まっすぐ)へ進むと西光密寺で、天童岩へは遠回りとなるが空海ゆかりの古刹。トイレもあるので立ち寄って、参拝してみたい所だ。

天童岩への道は南西(右)へ、木の根の這う黒髪山上部の東斜面を登っている。やがて傾斜も平坦となり、右手に天童岩の岩壁が見えている。

天童岩への分岐(RQ78番)に着き、道標とザイルに従い西(右)へ上る。

コンクリート道を過ぎて、木の根の道を下ると、いよいよ天童岩の鎖場が始まる。

近年は足場ステップや梯子も充実して、以前のスリル満点の岩場ではなくなつたが三点確保と登り優先の基本は忘れずに攀じりたい。

登りきると天童岩のコル(RQ79番)に出る。北(右)は龍門への下山路で、この鎖場のう回路でもある。天童岩へは南(左)へ進む。岩の間を抜け、

ナイフリッジを通過して、天童岩を西(右)へまわり込む。左右は切れ落ちている。

天童岩の最後の鎖を登りきると、標高こそ518mの低山ではあるが、

さえぎるもの無い360度の大パノラマが待っている。山頂部南端の岩場に、有田焼陶板が設置され、肥前の名山を確認することができる。

天童岩から後ノ平経由で龍門へ

展望を楽しんだら、龍門へ下山する。鎖場上のコル(RQ79番)まで戻り、

鎖場への下山路を東(右)に見送り、樹林の尾根道を北進する。

すぐに踏み跡に従い西(左)に折れ、道標(RQ69番)に従い、後ノ平への

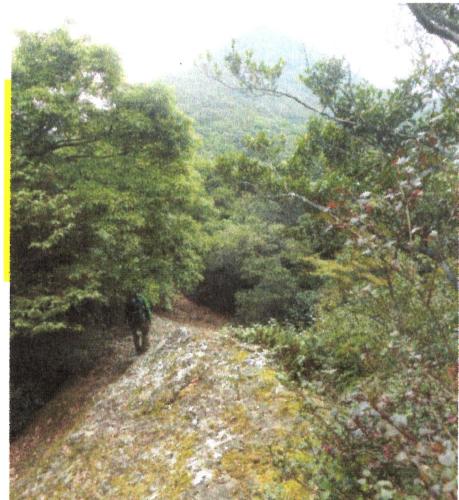
後黒髪尾根に移る。樹林の尾根はすぐに、う回路分岐(RQ68番)に降り立つ。



▲後黒髪尾根の展望台(昼寝岩)からの景観



▲鬼の岩屋



◀ 元祖うろこ岩を通過ながら仰ぐ蛇焼山

みどころ



龍門渓谷

昭和53年に県営龍門ダムに湛水されて、渓谷入口部分が水没しました。水没を免れた渓谷奥部には、龍門山の家とキャンプ場が整備されました。ここは黒髪・青螺・牧の黒髪3山の登山基地としての利便性は高く、駐車場・水洗トイレ案内所の機能がそろい、黒髪連山登山者の70%が、この登山口を利用しています。

龍門渓谷に踏み入れば人の手が入らず、豊かな自然景観が残っています。とくに、大屏風岩直下の洞窟から銀竜の滝までは山岳宗教ゾーンの雰囲気が色濃く残り、古来の修験道を今に伝えています。一方、二俣から本沢渡渉点までの渓流は、沢歩きを楽しむことができます。河鹿沢や無名沢など支沢には、古くからの炭焼き道が登山道に替り、静かな自然林を楽しみながら、日帰り登山を楽しむことができます。植物や野鳥も多く生息していく山域であり、案内機能を充実できれば質の高い鯉料理店もあって、観光の面でもさらに人気も高まることでしょう。

南(左)へ下りる道は、前黒髪尾根にある有田ダム乗越しを経て西光密寺への道。即ち、鎖場を迂回して天童岩に立つ登山道である。龍門へは、後黒髪尾根を直進する。登り道はすぐに蛇焼山(RQ67番)に着き、ジグザグの下りに入る。やがて傾斜は緩やかになり、RQ66番を確認していくと、一枚岩の斜面を通過する。この岩を通過し終えた頃、北(右)へ木立を分けると、龍門渓谷を見下ろす展望台「昼寝岩」がある。正面に鎮座する青螺そして牧山と連なる姿も感無量である。尾根に戻って、なだらかな下っていくと後ノ平(RQ63番)に着く。龍門へは北(右)へ下りていく。後黒髪東峰の北斜面を下って行き、尾根を巻いた所に鬼の岩屋がある。立派な岩屋で、居住も可能である。岩屋を右手に見送り、尾根をトラバースして進み沢に出る。登山道は、この沢の右岸を下るようになる。すぐに、くぐり岩があり、階段状を下って行くと渡渉点(RQ62番)に着き、ザイルに導かれて沢を渡る。すぐに尾根をトラバース気味にまわり込むと、岩場に出て、ザイルと梯子づたいに下る。沢の左岸を下り、道は次第に沢から離れ植林帯に入る。道標(RQ61番)に従い植林帯を下ると、傾斜が緩やかになり、龍門渓谷に降り立った雰囲気に変わる。枯れ沢を渡り進むと、二俣の分岐(RQ60番)に着く。ここからは、登ってきた道を戻ることになる。砂防堰堤を右に見る所で、渓谷公園への下り道を右に見送り、渓谷を木立の中に見下ろしながら下って行く。トイレの先で登山道は合流し、渓谷左岸を下って行くとコンクリート橋に着く。眼の前に龍門山の家が見えている。

後ノ平から後黒髪峰を往復

後ノ平(RQ63番)から西(まっすぐ)進めば、15分で後黒髪東峰(RQ64番)に着く。途中有る岩場が、元祖うろこ岩で、黒髪大蛇退治伝説にも登場する。東峰(RQ64番)から西へ下り、暗部(RQ65番)を通過し、西峰(RQ6番)に立つ。両峰ともに、残念ながら樹林の中で展望は無い。東峰から南へ、長尾観音堂に下る道もあるが、不明瞭で急傾斜もあり、道迷いで救助を求める登山者が多い。登山道整備を待つほしい。西峰から北へ、龍門三つ岩への尾根道も、山慣れた岩登攀者の道もある。共に危険ルートであるため、良識ある登山者は、後ノ平へ戻つほしい。



オガタマノキ	モクレン科	黒髪山系の植物：127ページ
植生	林内に生える	
樹高	15m程度の常緑高木	
葉	やや革質な倒卵状橢円形で全縁、光沢がある。	
花	径3cm程度で、強い香りが周囲に漂う。開花期が早春で、春を告げる木と言える。開花期：3月	
果実	ブドウの房状で、秋に熟す。	
和名の由来	小枝を神事に使ったことから「招霊の木」と書く。	



ヤマヒハツ	トウダイグサ科	黒髪山系の植物：104ページ
植生	薄暗い林内に生える	
樹高	1~2mの常緑低木	
葉	薄い革質で光沢がなく、全縁。先が長く尖る。 葉の表裏はしっとりとした感触をもつ。 短い葉柄と葉の主脈の角度が屈折し、葉柄や裏面脈上には短毛がある。	
花	白花で葉脈に付く。開花期：6月	
種子	晩秋に黒紫色に熟した果実をつける。	



ムカゴトンボ	ラン科	黒髪山系の植物：31ページ
植生	日当たりのよい湿地に生える	
高さ	10~20cmの多年草	
葉	茎の下部に3~5枚付き、上部に細い苞葉が付く。	
花	茎頂部に淡緑色の花が多数付く。開花期：9月 花は半開状で、唇弁の側裂片が細く水平状に延びて、口を開けた虫の顔に似ている。	
和名の由来		



ヤツガシラ	ベンケイソウ科	黒髪山系の植物：25ページ
植生	明るい岩場に生える	
高さ	1cm程度の多年草	
花	花茎は高さ3~5cmと小さく、花は密に円錐状に付く。開花期：10月	
和名の由来	多数の腋生枝を出し子吹きとなるため、牧野富太郎博士によって「八頭」と命名された。	
	ツメレンゲの一種と考えられますが、詳細は明らかではありません。 クロカミラン、クロカミシライトソウと並び、黒髪連山が全国唯一の自生地と考えられます。	

龍門はシダ類も宝庫です。国内の植物図鑑に掲載されているシダ類の写真の多くは、龍門渓谷で撮影されています。



ヒノキシダ	チャセンシダ科	黒髪山系の植物：189ページ
植生	岩上に生える常緑性の中型シダ	
特徴	2回羽状で、中軸が葉の先より伸長し、先端に芽を持つ特徴がある。 羽軸や裂片が革質で光沢を持ち、ほぼ同じ幅で広がる。 一見すると網目状で、緑のスダレのように美しい。	
和名の由来	葉がヒノキに似ることから。	



サイゴクホングウシダ

ホングウシダ科

黒髪山系の植物：190ページ

植生 岩上に生える常緑性の小型シダ

水しぶきが当たるような湿潤な渓流のそばに生える。

特徴 葉身は3~7cmで、葉柄は黄褐色。

頂葉片は楔形で、胞子嚢群が連続して付くことが特徴。

和名の由来



スジヒトツバ

スジヒトツバ科

黒髪山系の植物：192ページ

植生 岩上に生える常緑性の小型シダ

特徴 葉身は10cm程度で、細長く硬い葉柄を持つ。

葉は厚いが、いくぶん柔らかく、葉表の数本の縦筋が特徴。

和名の由来

筋を持った葉が、根茎から葉柄に1枚付くことから。



ウチワゴケ

コケシノブ科

黒髪山系の植物：201ページ

植生 湿った岩にマット状に生える、高さ1cm程度の小型シダ。

特徴 葉は直径1~2cmの円形に見えるものが多い。

葉表には、時折、トランペット形の包膜が見られる。

和名の由来

葉の形から。



オオルリ

フィールドガイド「日本の野鳥」：260ページ

大きさ 約17cmで、ヒタキ科の中では大きい。

習性 夏鳥として、九州以北の山地に渡来し、渓流沿いの林を好む。

特徴 雄は、頭から背が青紫色で、翼と尾は黒くて青い羽縁がある。

喉・顔・胸・脇は黒く、腹は白い。

捕食

啼き声 地鳴き：クックッまたはタッタッ。

さえずり：ピーリーリー、ポイポイピピとかピールリピールリ、ジェッジェッなどと、ゆっくり美声で鳴く。

写真／日本野鳥の会佐賀県支部／加藤芳隆

アカショウビン

フィールドガイド「日本の野鳥」：206ページ

大きさ 約28cm。

習性 夏鳥として、全国的によく茂った林に渡来するが、多くはない。

特徴 体の大部分は黄褐色を帯びた赤色。上面には紫色の光沢があり、腰にはルリ色の羽毛がある。

嘴は太く赤く、足も赤い。

捕食 湿った斜面や渓流で、昆虫・両生類・爬虫類・サワガニ・ムカデ・カタツムリ等を捕る。

啼き声 キヨロロロロ…と尻下がりに鳴く。